



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## パイソンって、なに？

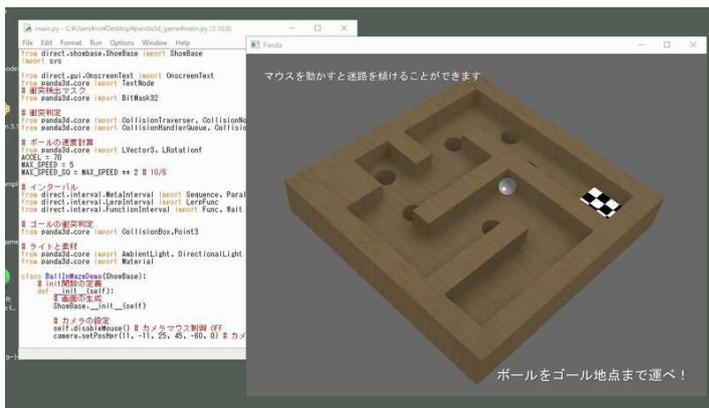
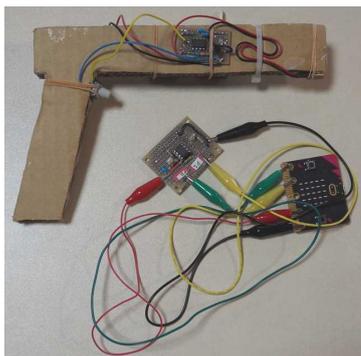
### ゲーム・プログラム言語・電子工作

Python (パイソン) を特集しているパソコン雑誌が目立ちます。ネットから自由にインストールでき、お金もかからず誰でも使えるプログラム言語。しかも世界中のいろいろな人が作ったライブラリを使い、遊びから仕事まで、自分の作ったプログラムを役立てることができます。

パソコン黎明期、趣味は BASIC、研究は Fortran、仕事は COBOL など、使えるプログラム言語も限られていました。1970~80年代に開発された「C」や「C++」という汎用言語は今でも現役ですが、加えて、いろいろな目的で作られたプログラム言語が花盛り。そのなかで、いまは Python が人気です。居場所では Python 環境が数台の PC で動きます。Windows パソコンの新規追加はお金がかかるので、ユーザが増えたときは、中古パソコン + Linux を導入予定。

居場所 PC で Python を試しているスタッフの F さん、雑誌記事を参考に、ボールを転がしてゴールに動かすゲームにトライしています(右上画像)。プログラム言語の面白いところは、「コードを書いて実行すると、予想どおりにコンピュータが動くしてくれること。うまく行かないときは、その理由を見つけるために、いろいろ考えて試してみる。間違い探しクイズをやっているようで楽しい」。

前号で紹介した、Roblox (ロブックス) : 『ユーザーがゲームを作成、共有したり、他のユーザーが作成したゲームをプレイできる、オンラインゲーミングプラットフォームおよびゲーム作成システム』(Wikipedia)。そのシステムを操作している子どもたちの様子を見ると、ゲームを作っているのか、作ったゲームで遊んでいるのかわからなくなります。ゲームとプログラミングがそれぞれ進化しているうちに、近いとこ



Python+3次元ライブラリを使ったゲーム。居場所PCで動いています。

ろに来てしまった、まるで SF 世界を見ているような気がします。ネットゲームの参加者が別画面で他のユーザとコミュニケーションできる「ディスコード」というツールが流行りだそう、オンライン授業で取り入れている大学もあるし、数人でのプログラム言語学習や開発にも便利とか。まだ居場所では使っていませんが、アカウントを作り「お話し」に使ってみようかなと計画しています。家で使っている子どもも多いのでは。

少し前にこの通信で紹介した micro:bit、ときどき取り出して遊んでいます。今回は雑誌の制作記事を見て、「射的ゲーム」を作ってみました(左下写真)。レーザーガンのトリガクリックで赤色レーザー光が 0.1 秒間、発射されます。写真中央の標的ボードにある半導体光センサに当たると、基板上の回路が micro:bit 端子にパルスを送ります。micro:bit は Bluetooth (無線) 経由で PC に「命中」信号を送信、PC 画面のネコちゃんが得点を数えます。電気信号のリレーとソフトウェアの働きを実感できるおもちゃ。興味のある方、見学歓迎です。(F,T)

## 子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所 (日光市今市316-4)

日時：毎月 第2月曜日 (午前10時~12時)

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300 円 (お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。  
(Tel : 090-3227-7079)

## 目次

ゲーム・プログラム言語・電子工作	1
すべての人に無償の普通教育を	2
大和証券福祉財団助成金・活動報告書	3
活動報告	3
こんな本はいかが・59	4

## 居場所のひとこま

楽器の置いてある部屋のボードにはたくさんの楽譜が貼ってあります。「今は練習中」、「この曲やろうか」、「オリジナル曲のコードメモ」などなど…。もうすぐハロウィン、次はクリスマス。いまから練習しておこうという曲もあります。12月には音楽会をやりたいね。



## 日本学術会議の提言を読む 「すべての人に無償の普通教育を」 多様な市民の教育システムへの包摂に向けて

6月25日に宇都宮(オンライン)で行われた講演会、「不登校支援の新たな時代へ」(NPO法人とちぎ教育ネットワーク)のなかで、講師の喜多明人さんが引用した日本学術会議の「提言」に興味を持ちました。(「提言要約」URL)  
<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t295-2-abstract.html>

提言は「教育機会確保法」を「理念実現の確かな一歩」ととらえています。教育制度のあり方、とくに「特定の個人・集団に対する教育システムからの排除」に注目して検討し、「さまざまな立場にある人々を教育システムに取り込み、彼らに十分な教育機会を保障すること＝教育システムへの包摂」により、社会的排除を押しとどめようという目標を掲げています。以下、注目したいいくつかのポイントに分けてこの提言を見ていきたいと思います。

### (1) 教育を受ける権利から不登校を考える

「教育機会確保法」は2016年に施行されました。この通信でも、第42号:2016年1月「多様な教育機会確保法案」、第46号:2017年2月「教育機会確保法」成立、など特集として取り上げました。通信で加藤敦也さん(社会学)が指摘しており、提言にも述べられているとおり、「確保法」の基本理念は「教育を受ける権利の保障」です。これは憲法第26条にうたわれている「すべての人の教育を受ける権利を保障する」というかんがえ、そして「子どもの権利条約」の理念でもあります。(文末に「子どもの権利条約・4つの原則」を転載しました)

加藤さんの投稿文(通信42号)、「学校に通うことを望まない子どもがいることは事実です。権利保障の基本的な考え方は、その子どもが統計的に少数派であったとしても、その個人の意見と価値観を権利として保障することです」には法と原則に基づく不登校への対応が示されています。この考えを基本に、確保法を具現化するための制度をつくっていくことを提言は求めています。

### (2) より広い視点から不登校を考える

「教育機会確保法」は不登校の支援団体だけでなく、夜間中学を支える関係者も参加してつくられたという経緯があります。外国籍、障がい、貧困、差別などさまざまな理由で小中学校の教育を受けられなかった人々も「確保法」の対象です。提言の冒頭に書かれているように「教育」は社会の一部。「教育」に限らず、社会に埋め込まれた多くの仕組みの中に弱者への社会的排除が潜んでいることを論じています。「不登校って、本人が学校へ来ないのだから、教育からの排除ではないだろう」という意見は今でもよく聞かれます。「日本語ができないのだから仕方ない」、「障がいがあるのだから無理」も同じ。そこで止まってしまえば、「どうやってその子の学びをつくり出そうか」という発想は生まれません。「排除」という視点から「確保法」からのメッセージをとらえることによって、これから始まろうとしている学校と民間による不登校支援の連携が進んでいくことを、この提言は期待しているように思えます。

### (3) 周辺化される目立たない子どもたちと不登校

提言は「教育的に不利な環境のもとにあると考えられる人々」を6つのグループに分類しています。項目の最後に取り上げられているのが「周辺化される目立たない子ども」です。

「勉強についていけない児童生徒の割合は、高校7割、中学校5割、小学校3割」、「七五三教育」と呼ばれていることを、提言を読んで知りました。「周辺化された」子どもたちは、学校の中ではとくに目立たず注意を向けられない存在として論じられています。「学習内容を理解できず、また、学ぶことや知識を身につけることの意義を実感できないままに、形式的に卒業証書を受け取って、学校を通過している」子どもの実態、「できない子」などのレッテルを貼られることが人格までおよぶ悪循環を生んでしまうという負の側面にも言及しています。目立つ/目立たないの違いはあるけれど、「不登校」の子どもたちも同じ状態に置かれています。学校調査の値は不登校数の増加を示していますが、その中でどれだけの子がどんな援助を受けたのでしょうか。「周辺化された子どもたち」に向けた学校のカリキュラム・活動の見直しは、「不登校」への対応を含めて考えていくことが大切ではないか。「学校に通うことを望まない」子どもを周囲が受け入れ、援助していく仕組みをつくっていくことが、じつは「周辺化された子どもたち」への成長に向けた学びの再構築につながるのではないかと思います。

### (4) 居場所と不登校 — まとめに加えて

自分に合った生き方・学び方を探し、納得して前に進んで行くまでには、一人ひとり多くの葛藤があります。長い時間が必要かもしれません。不登校の子が学校、教育相談、民間団体などの支援を受け、次のステップに進む過程については提言では触れられていません。私たちは、学校から遠のき家で過ごす子どもたちへ、まず「居場所」というのんびりした空間で、自由に過ごすことを提案してきました。小さな活動ですが、不登校の子の「学ぶ権利」を守り、「教育の公正」、「排除から包摂へ」という理念につながる大切な一歩ではと考えます。

文科省のホームページ「義務教育の目的、目標」には「義務教育は国民が共通に身に付けるべき公教育の基礎的部分をだれもが等しく享受し得るように制度的に保障するものである」と書かれています。このため、国や地方公共団体によって維持運営されているのが「公教育」です。提言まとめには「この法律(確保法)が審議され始めた当初は、従来の義務教育の考え方を見直し、フリースクールなども義務教育として認める方向で検討されていた」とあります。検討が立ち消えになってしまったのは、「多様な教育」を「義務教育」に含めることで安易な民間委託が広がり「公教育の解体」につながるという心配が影響したのかもしれませんが、「確保法」の具現化は今後の仕組みづくりに委ねられています。それは、教育行政と民間団体が共同し、「公教育」の在り方も含め慎重に見直していく作業となるでしょう。教育に関わる(もちろん、子どもたちも含めた)すべての人たちにとって、「学校」が、より自由な楽しい場所に変わっていく転換点になることを期待しています。

多くの議論を経てまとめられたという「提言」を、読んで気付いたことを書いてみました。「不登校」に限定せず、「日本の教育制度に内在する問題点」を整理し、どう変えていったらいいのかを示しているところに、この提言の意義があると思います。ぜひ「提言要約」を開いてみてください。ページ末尾のリンクから提言全文をダウンロードできます。(手塚)

### 「子どもの権利条約」4つの原則

生命、生存および発達に対する権利(命を守られ成長できること)  
子どもの最善の利益(子どもにとって最もよいこと)  
子どもの意見の尊重(意見を表明し参加できること)  
差別の禁止(差別のないこと) 【日本ユニセフ協会・ホームページより】

# ☆ 活動日誌

- 7月25日(月) 通信「なんとなくのひろば」第68号 発行
- 7月31日(日) ベリー会(月例会)
- 8月8日(月) 茶話会(第120回)
- 8月11日～16日 子どもの居場所・夏休み
- 8月25日(木) 日光市役所地域振興課インターン生(3名) 見学
- 8月28日(日) ベリー会(学習会)
- 9月6日(火) 第109回 理事会
- 9月8日(木) 日光市役所地域振興課インターン生(2名) 見学
- 9月12日(月) 茶話会(第121回)
- 9月21日(水) 大和証券福祉財団・2021年度(第28回) ボランティア活動助成報告書 送付
- 9月25日(日) ベリー会(月例会)
- 9月30日(金) 日光市長、市教委へ要望書提出
- 10月23日(日) ベリー会(学習講演会)



裏の駐車場から見た  
「さくらそう」入り口です  
寒い日が多くなり  
夏に刈った草を片付ける  
時期になりました

## さくらそう関連：勉強会など

### 2022年度 日光市相談支援専門員連絡会

- 4月27日(水) 第1回 前年度振り返り・今年度計画・放課後等デイサービスあさがお紹介
- 5月25日(水) 第2回 ソーシャルワーク事業所そえしあ 事業紹介・自身の健康法を保つためのストレスマネジメント
- 6月22日(水) 第3回 コミュニティコーピング(「社会的孤立」を解消する協力型ボードゲーム) 体験  
(第4回、第5回 中止)
- 9月28日(水) 第6回 新規放課後等デイサービス紹介
- 10月26日(水) 第7回 新規放課後等デイサービス紹介

### 2022年度 日光市障害者自立支援協議会

- 4月14日(木) 第1回 事例検討会議
  - 5月12日(木) 第1回 ケース・事例検討会議 「相談支援専門員のスキルアップ」
  - 6月9日(木) 第2回 ケース・事例検討会議 「野中式事例検討 70分版」
  - 7月14日(木) 第3回 ケース・事例検討会議
  - 9月8日(木) 第4回 ケース・事例検討会議 「近藤式 伝達 研修」～アセスメント力をたかめよう!～ 説明
  - 10月13日(木) 第5回 ケース・事例検討会議 「近藤式 伝達 研修」～アセスメント力をたかめよう!～ 実践
- 11月以降は、日光市障がい者自立支援協議会(第1回 相談支援実務者会議)  
栃木県強度行動障害支援者養成研修(実践)～オンライン研修～などが予定されています。

## ■ 大和証券福祉財団・2021年度(第28回) ボランティア活動助成報告書

居場所の移動が決まり、経費を確保するため大和証券福祉財団より30万円の助成金を受け、冷蔵庫、ガス給湯器、インターネット回線、エアコンなどの設備充実にあてることができました。報告書の一部を紹介します。

「新型コロナウイルス感染症(Covid-19)」の終息は、まだ見とおせない状態が続いています。当分はマスク着用、体温チェック、手洗い励行は続けなければなりません。感染リスクが高い行動のひとつは「会食」と報道されています。台所回りの整備により子どもたちと調理・お菓子づくりを行う準備ができました。昨年は「焼き菓子」を考案し賞味しあった場面もありましたが「第6波」での中断が続き、まだ復活は難しい状態です。現在の「第7波」の動きを注視し、工夫を重ねて「つくって食べよう」を始めていきたいと考えています。

2016年に成立した「教育機会確保法」には「学校への適応指導」という従来の不登校対応からの脱却がうたわれ、法の付帯決議には「オンライン教育、フリースクール、多様な学びの在り方を含めた教育を受ける機会の確保」が明記されています。居場所利用者の子供たちはROBLOXというプログラム可能なネットのゲーム環境に興味を持ち遊んでいます。遅い回線では難しかったプログラム作成も可能になり、スタッフとともに学びながら取り組んでいます。強化されたインターネット環境を子どもたちの「学び」につなげていきたいと考えます。(中略) 安定したネットワーク接続を確保したことにより、ネット会議システムを応用した相談支援、学習支援を強化していきたいと思えます。居場所の紹介、活動紹介など気軽に閲覧できる情報発信にも力を入れ、「居場所オープンデー」や、2019年以来中断が続いている「なんにわ勉強会」、「サイエンス・カフェ」など地域に開いた集まりを企画していきます。

## ■ 日光市に要望書提出(「子どもの居場所・学びの場」委託金について)

- (1) 来年度時給見積額の増額(栃木県の最低賃金がこの10月より913円となり、今後の上昇も予想されるため)
- (2) 開所日数10日の増加(現在220日となっているが、学校長期休業中も開所の要望があり当会からの支出で開所している)
- (3) 転居作業は会員の協力により清掃や運搬などの費用負担を最低限に抑えることができたが、追加工事などで支出が増えた。修繕費・光熱費の増額により援助をお願いしたい。

以上3点について要望書を作成し、日光市教育委員会に提出いたしました。(9月30日)

## なんとなくのひろば

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



### こんな本はいかが？ その 59

#### ガルシア=マルケス中短篇傑作選 野谷文昭 訳、河出文庫

「百年の孤独」で有名なコロンビアのノーベル賞作家の作品集。その「百年の孤独」、日本語訳の初版(1972年)・第20刷は我が家の本棚に積まれたままである。なぜこの小説に興味を持ったのか、書評を見たのか、誰かが勧めてくれたのかも覚えていない。ココスだったかロッセリアだったか、どこかのファミレスで読み始めたぼんやりした記憶はあるのだけれど、いきなりラテンアメリカの混沌に放り込まれるような冒頭にびっくりし、とても読めないやと観念したまま数十年が過ぎた。最近、久しぶりに出かけた本屋の新刊コーナーでこの短編集を見つけた。目次をながめ、訳者あとがきをめくったら、『百年の孤独』を読み切れなかった読者もこれらの短編から入ると、彼の作品が読みやすくなると思う」とある。つい、レジに持って行ってしまった。翻訳者さんも、なかなかうまい宣伝文句を考える。

中編「大佐に手紙は来ない」の舞台はマルケスが創造した架空の町。時期は10月。年中蒸し暑いのか、熱帯の雨期なのか、手紙を待ち続ける「大佐」とその妻が生活を続ける家から話は始まる。湿り気をたっぷり含んだ重い空気に押しつぶされそうな、雨漏りする家。陰鬱な雰囲気の中で「大佐」は自分たちの食事にも困りながら、軍鶏にやる餌を工面して「手紙」を待つ。それだけの話。行ったこともこれから行くこともないだろう南米のどこかの町の片隅、むっとした湿気や臭が漂う作者独特の描写が印象的だ。

作品は年代順に配置されている。後半の短編に進むにしたがって、ぬかるみに落ちた「巨大な翼をもつひどく年老いた男」(この老人は天使らしい)の話など、空想の度合いが強くなる。それでも不思議なリアリティを感じるのはマルケスの力技なのだろう。圧巻は「純真なエレンディアと邪悪な祖母も信じがたくも痛ましい物語」というタイトルの中編。内容はタイトルのおおりに要約するのもおぞましい。映画の脚本として描かれたと「あとがき」にある。陰惨なポルノにしかならないのではと思うがどうなったのか。次の短編「聖女」は腐敗しない少女の遺体をめぐる話。聖人ゾシマ長老の遺体から屍の臭いがしたという「カラマーゾフの兄弟」の一節を思い出しながら読んだ。

マルケスの幻想魔術の世界を覗いてみたい人におすすめの短編集。さて、読み終えてみて、「百年の孤独」への準備ができたのか、訳者のマジックに騙されただけなのか、そこのところはよくわからない。(手塚)

### 私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

### 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

### 会員について

正会員：51  
賛助会員：15  
団体会員：4

入会金なし  
年会費(一口)  
正会員 3,000円

賛助会員  
個人 5,000円  
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

### なんとなくのへや

私たちの銀河系は一千億個を超える星の集まりです。さらに銀河系の外側には多くの銀河が広がっていることが100年くらい前にわかり、宇宙全体が膨張していることも発見されました。そんな頃、宇宙に分布する多くの銀河を調べていた天文学者たちは「光や電波では見えない物質がある」ことに気がきました。しかもその謎の物質は既知の「元素」のように光や電波には反応せず、重力のみを感じるらしい。これを「ダークマター(暗黒物質)」と呼んでいます。さらに正体不明のエネルギーもあり、私たちが元素周期表などで知っている「ふつうの物質」は全体の5%、他は未知の何かが宇宙を満たしているそうです■「ダークマター」って何なのか。現代の物理学・天文学の大きなテーマです。1990年ごろ、「ニュートリノがダークマターかもしれない」という理論予測があり、「ニュートリノの重さがわかれば宇宙の重さがわかる」という実験に参加したこともありましたが、残念ながらニュートリノはそれほど重くなかった■さて、毎年10月末に「ダークマターの日」(Dark Matter Day)というイベントがあり、世界のいろんな研究所が参加しています。<https://www.interactions.org/dark-matter-day> をアクセスすると、不気味なグラフィックイメージを見ることができます。黒いクモの巣のように見えるのがダークマターが濃く集まっている部分、その中で小さく光っているのは銀河、そのどれか一つが私たちの銀河系。現代科学が突きとめた地球から100億光年範囲の宇宙マップです。いまのところ、ダークマターが何なのかかわからないのであれこれ考えて楽しむイベント。ネット検索してみてください。(T)